

警城中正新報

發行日 每月一日 十五日
 郵税共價 一部 金 拾錢
 廣告料 普通欄十二字詰一行
 一回八十錢 場所指定
 同二十錢
 編輯人 安澤榮作
 印刷所 福島縣平野郡警城跡四
 警城中正新報社

平警察署の移轉

舊郡衙の改修も

今月下旬には完了

お引越は九月一日

豫ての懸案であつた平警察署の移轉は、電話の移轉が舊石城郡役所の廳舎に位のもので之とて縣の電話決定したので同署では縣當上手と遞信局の工手とで其局と打合せの上平警察署廳力すれば三四時間で出来上合として遺憾なき設計の了る見込み全部の竣工は今日既に改修工事に着手八分二十八日頃で九月一日に通り進工し署長室を初め各は舊廳舎を引拂ひ大平警察主任室、會議室等も進歩し署として面目を一新せる新目下は最後の留置場の工事廳舎に引き移り盛大なる移中、此れも四五日中には出廳式を舉行する由承上る見込水道の模様替も

全國列車運轉

時間の大改正

九月十五日より實施

平驛の發着時間

鐵道省では豫て問題であつた主なるもので常磐線中平驛た全國に渉る列車時間の大的發着時間は左の通りで改正は愈々準備完了し九月十五日より實施する事になつたが改正の主眼は交通の繁盛に備へるためと各名勝地等の紹介小荷物の急送等を考慮して列車運轉時間の改正による短縮と増加等が

上野	前二、三三	二、三二
行先	著	時
時	發	時
同	同六、五九	七、〇五
同	同八、三九	八、四五
同	同〇、三五	〇、四二

鐵道省が窮餘の一策

乗合自動車に挑戦

新造のガソリン、カーで

九月十五日の時間改正と同時に

鐵道省が滅收の一大原因である自動車の壓迫に對抗し、地方自動車との競争線にガソリン、カーを列車と列するの間に運轉し旅客の吸集を謀ると共に通學生や通勤者の便を計る計畫であるが、一台の新造費は一萬五千圓で既に十五臺出上り各鐵道局に配屬したが速力は一時間三十マイル、四十三人乗りでガソリン、カーとは云ふものの省線電車をつくりの體裁で頗る乗り心地のよいもので目下十數名の運轉手が運轉の練習中であるが来る九月十五日の時間改正と共に大體左の各線で運

警陽文壇の明星

吉岡獨歩氏創作の

琵琶歌で感謝状を贈らる

警陽文壇の作家として廣く知られ、該開整工事に對する社會に識られ沈滞しつづ公の辛苦艱難とを髣髴たらしめる警陽の天地に常に萬丈しめ千載の下に義人の遺芳の氣を吐き且つ琵琶歌と俚を回想せしむる好材たるの謠、俳句の大家として其のみならず一面敬神崇祖の道名隠れなき本郡赤井村小川を教へ人道の善導に資する吉岡獨歩氏は小川江筋の開闢大なりと認む仍て茲に感祖澤村勝爲公の薩摩琵琶歌、謝の意を表す

昭和四年五月一日
 警城小川江筋普通水利組
 合管理者地方事務官
 吉岡獨歩殿
 從七位伊藤秀吉

統計大會

小名濱で開催

出席者四百餘名

縣主催市町村統計主任大會は去る十日午前九時より小名濱小學校で開催され、出席者四百餘名で盛況を極めた

平第三小學校舎工事

佐藤福太郎氏が

随……意……契……約

工費四萬五千八百五圓

平第三小學校舎新築工事さしめたが最低價格四萬六千八百圓に於ては、最低價格四萬六千八百圓を越すことになり、佐藤福太郎氏が、最低價格四萬六千八百圓を維持し、工費四萬五千八百五圓を以て、契約を締結し、同氏が豫定價格の審判員も不愉快を感じたと

炎天續き

濱通り地方

濱通り地方では約一ヶ月間に亘り殆ど降雨皆無の状態に陥り、各村は勿論小名濱、玉川、渡邊、等の各村に於ける水稲百數十町歩は全く灌水の途なく枯死を講じて雨乞ひをなす何れも天の一言を俟んで速に蘇雨の沛然として來らん事を祈願してゐる等は全く同情に値するが

中止三四名

青年雄辯大會

中止三四名

青年雄辯大會は十日午下部下青年雄辯大會は十日午六時平野町警察署で開催され、出席者四十餘名、辯論の辯士中三四名は、止を命ぜられ、他大部分は、現社會制度を呪ふが如き口吻を演じたので、一般聴衆及審判員も不愉快を感じたと

中……正……管……見

朝野を通じて陸軍縮少の聲日を追つて猛烈となる宇垣陸相精算ありヤシツカリ頼む

民政黨が一枚看板の教育費全額國庫負擔がドウチャ怪しくなつて來た江木文相大に頑張れ

徒らに緊縮の美名に隠れ地産産業の進歩を阻止するが如きは國家百年の大計に添はず

議會解散を回避する政治の弱虫其に誨め解散何ぞ恐る、に足らん野黨として正々堂堂と戦へば、くしてコソ公黨の存在価値がある

メイトル法を知らずして同級生に嘲れしを恥じて死んだ女學生もイライが幾多の醜聞を流して蛙鳴々々してゐる某私立女學校長も蒙り

節約宗の總本山十僧正、口總裁鎌倉第一の大別荘にをさまり月何百圓かの家賃を支拂ふ、但し朝野舉て節約の秋、國民共は見習ふ勿れ

炎熱に續て殘暑殊に酷し、切に同業者各位の健康を祈る

時季漸く傳染病の發生期に向ふ各自細心の注意を拂へ暴飲暴食を慎み衛生に陥らざるが肝要である

